

取組事例

2 県関係の事例

事業名 【平成23年度 子ども読書ボランティアリーダー養成講座（上越地区）】

目的 子どもの読書活動を推進するため、既に活動している子ども読書ボランティアの更なる資質の向上を目指して講座等を開催し、地域におけるリーダーの育成とネットワークの構築を図る。

実施主体 新潟県教育庁生涯学習推進課・上越教育事務所社会教育課

参加対象 読み聞かせや学校図書館支援など、子ども読書活動にボランティアとして参加した経験のある方
参加者数 延べ133名
 （子ども読書ボランティア活動に参加予定の方も含む）

回数 5回 **日数** 4日 **時間** 10時間
 （各講座2時間）

場所 上越市直江津学びの交流館 多目的ホール及びイベントホール

内容

回	期日・時間	テーマ	講師
1	10月11日（火） 10:00～12:00	[講義] 子どもたちに豊かな本の世界を伝えるには	新潟大学非常勤講師 錦 恵美子 様
	内容・方法	・子どもに読み聞かせるだけでなく、自分自身も学び、楽しんで欲しい。そのためには様々な本と出会い、すばらしさを味わうことが大切である。難しい技術は要らない。子どもたちに心を込めて肉声で語りかけて欲しいなど、子どもたちに絵本のよさを深く味わってもらうための読書ボランティアの在り方についての講義を実施。 [40名]	
2・3	10月18日（火） 10:00～12:00 13:00～15:00	[講義と演習] 子どもが初めて出会う文学（1） ～ “わらべうた” のたのしさを ～	野いちご文庫スタッフ 新潟県立大学非常勤講師 伊藤 美智子 様
	内容・方法	・耳から聞く豊かな言葉の体験は、人と人との温かい関係の中で生まれ、その後の人生に大きく影響する。わらべうたは子どもにとって喜びの伴った言葉の体験であり、成長を促す子育ての知恵でもあるなど、わらべうたの特徴や伝え手の役割についての講義。 ・わらべうたを使った遊び方の演習を実施。 [24名]・[24名]	
4	10月25日（火） 10:00～12:00	[講義] 子どもが初めて出会う文学（2） ～ “おはなし” のたのしさを① ～	野いちご文庫スタッフ 新潟県立大学非常勤講師 伊藤 美智子 様
	内容・方法	・耳から聞く物語体験は、子どもたちの想像する力を育む。語り手自身も楽しんでお話の財産を蓄え、それを伝えたいという気持ちを大切に、子どもの聞く力を信じて語り、その楽しさを共有して欲しい。そのために、お話を選ぶことの大切さや語りに向くお話の条件などの講義と、語りの実践を実施。 [22名]	
5	11月1日（火） 10:00～12:00	[演習] 子どもが初めて出会う文学（2） ～ “おはなし” のたのしさを② ～	野いちご文庫スタッフ 新潟県立大学非常勤講師 伊藤 美智子 様
	内容・方法	・お話の世界は聞き手とともに創り上げていくもの。常にお話の三要素（物語・語り手・聞き手）を考えて取り組み、お話の構成やイメージをしっかり掴み、三つのS（simply簡潔に、slowlyゆっくりと、sincerely誠実に）を大切にして語って欲しいなど、具体的な覚え方や語り方についての講義と、語りの演習を実施。 [23名]	

成果 ・豊かな本の世界を伝えていくためのボランティアの在り方について学んだ後、わらべうたやお話（昔話や物語など）の内容について講義や演習で学ぶことができた。絵本の読み聞かせと違い、わらべうたやお話についての講座は上越地区では初の試みであり、参加者一人一人は子どもの読書活動推進への新たな視野を広げることができた。

課題 ・リーダー養成講座は開始以来4年以上が経つ。ボランティアの子ども読書活動に対する意識と読み聞かせの技術は確実に向上している。今後の視点として、養成した人たちがどのようにして活躍していけるか、その場所や機会の開拓が必要ではないかと考える。

問合せ先 新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課（担当：猪又英一） TEL：025-526-9377

事業名

〔平成23年度 子ども読書ボランティアリーダー養成講座（中越地区）〕

目的

子どもの読書活動を推進するため、既に活動している子ども読書ボランティアの更なる資質の向上を目指して講座等を開催し、地域におけるリーダーの育成とネットワークの構築を図る。

実施主体

新潟県教育庁生涯学習推進課・中越教育事務所社会教育課

参加対象

読み聞かせ等子ども読書ボランティア活動に参加した経験のある方

参加者数

延べ87名

回数

5回

日数

3日

時間

10時間

(各講座2時間)

場所

長岡市立中央図書館 講座室1

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	9月28日(水) 14:00~16:00	○ 子どもたちに豊かな本の世界を伝えるには	新潟大学非常勤講師 錦 恵美子 様
	内容・方法	・読み聞かせの意義と責任、子どもにとって本と読書の影響などの講義 ・本の楽しさや本に興味をもたせるための作家や画家の生い立ち、本の背景にある実際の世界の講話 [28名]	
2	10月6日(木) 10:00~12:00 13:00~15:00	○ ブックトークってな～に ～ テーマの設け方と選書～ ○ やってみようブックトーク(1) ～ まずは1冊の本から～	元新潟県立高等学校司書 野上 千恵子 様
	内容・方法	○・手遊び歌を通して参加者とのコミュニケーションづくり ・学校読書ボランティアの心構えと子どもの教育にかかわる責任などの講話 ・ブックトークの意味、テーマ設定、選書についての講義(具体的に本を例示して) ・ブックトークの実演(高校1年生を対象とした授業1時間設定) ○・1冊の本を紹介する演習(参加者のうち10名) ・演習を受けて参加者全員による感想・意見発表、講師による講評 [16名] [15名]	
4	10月20日(木) 10:00~12:00 13:00~15:00	○ やってみようブックトーク(2) ～ ブックトークの演習と講評～ ○ やってみようブックトーク(3) ～ ブックトークの演習と講評～	元新潟県立高等学校司書 野上 千恵子 様
	内容・方法	○ 代表によるミニ・ブックトークの演習と参加者による意見交換と講師の講評 [13名] ○ 代表によるミニ・ブックトークの演習と参加者による意見交換と講師の講評・まとめ [15名]	

成果

- ・ 第1回目の講義は、子どもの心の成長と生きる力を育てるために本と読書が大切であること、読み聞かせでは作者や画家、本のバックグラウンドを知っておくことがより本の楽しさを伝えることを参加者の多くが感じ取っていた。
- ・ 第2～5回のブックトークの演習と意見交換及び講評は、参加者の貴重な体験と意欲につながった。
- ・ 両講師から読書ボランティアは子どもとかかわる責任ある活動であることを伝えてもらった。
- ・ 第1回目の講座のみの参加も可能として、より多くの方から読書の重要性を考えてもらう機会として設定したが、思うように参加者が増えなかった。開催の趣旨の周知と広報の工夫が必要である。

課題

問合せ先

新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課(担当:島田敏夫) TEL:0258-38-2652

事業名

〔平成23年度 子ども読書ボランティアリーダー養成講座（下越地区）〕

目的

子どもの読書活動を推進するため、既に活動している子ども読書ボランティアの更なる資質の向上を目指して講座等を開催し、地域におけるリーダーの育成とネットワークの構築を図る。

実施主体

新潟県教育庁生涯学習推進課・下越教育事務所社会教育課

参加対象

読み聞かせ等の子ども読書ボランティア活動に参加した経験のある方

参加者数

延べ173名

回数

6回

日数

4日

時間

12時間

(各講座2時間)

場所

五泉市立図書館 研修室

内容

回	期日・時間	テーマ	講師
1	10月25日(火) 10:00~12:00	○ 子どもたちに豊かな本の世界を伝えるには	新潟大学教育学部 非常勤講師 錦 恵美子 様
	内容 ・ 読み聞かせとは・・・ ・ 家庭文庫 方法 ・ 読み聞かせボランティアとして大切にしたいこと	・ 絵本の歴史と絵本のない時代のむかしばなしについて ・ 外国の絵本	[38名]
2	11月1日(火) 10:00~12:00	○ 絵本の読み聞かせの基本確認 ○ 選書の方針	センス・オブ・ワンダー 主宰 中山 佳奈恵 様
	内容 ・ 地域の図書館との関係を大切にする ・ 絵本の読み聞かせとは何か 方法 ・ 絵本とは何か	・ 読み聞かせの範読 ・ 読み聞かせボランティアの留意点 ・ 質疑応答	[28名]
3 ・ 4	11月8日(火) 10:00~15:00	○ 課題プログラムの検討会Ⅰ	センス・オブ・ワンダー 主宰 中山 佳奈恵 様
	内容 ・ 課題図書 方法 ・ 意見交換 ・ 指導、助言	<午前> 10:00~12:00 ・ 課題図書の読み聞かせ(2グループ9名) ・ 意見交換 ・ 指導、助言 [27名]	<午後> 13:00~15:00 ・ 課題図書の読み聞かせ(2グループ9名) ・ 意見交換 ・ 指導、助言 [27名]
5 ・ 6	11月18日(金) 10:00~15:00	○ 課題プログラムの検討会Ⅱ	センス・オブ・ワンダー 主宰 中山 佳奈恵 様
	内容 ・ 課題図書 方法 ・ 意見交換 ・ 指導、助言	<午前> 10:00~12:00 ・ 課題図書の読み聞かせ(2グループ10名) ・ 意見交換 ・ 指導、助言 [26名]	<午後> 13:00~15:00 ・ 読み聞かせの基本、選書についてのまとめ ・ グループ討議、情報交換 ・ 指導、助言 [27名]

成果

- ・ 第1回目の錦先生の講演では、「読み聞かせが長続きするには、まず絵本が好きになること。子どもと共に感動を分かち合いたいと思うこと。」「肉声での読み聞かせが大切であり、それにより人間関係が密になる。」等、ボランティアリーダーとして活動するための指針を再認識できた。
- ・ 第2回から第6回目までの中山先生からは、実体験から読み聞かせボランティアとして心がけなければならないこと等についての講義、受講生一人一人による読み聞かせに対する助言・指導、読み聞かせの範読、読み聞かせの本のリスト紹介があり、受講生にとって大きな収穫となった。
- ・ 振り返りシートを毎回記入してもらうことで、受講者の反応を集約することができた。なお、集計結果は、講師にもその都度送付し、今後の参考としてもらった。

課題

- ・ 4回の枠内で1日日程を2回入れて実施することで、昨年度より2時間増となった。しかし、課題図書の読み聞かせの実習の時間が不足気味であった。ただ、講座日数の1日減は、受講生の都合を考慮すれば妥当であったと思う。時間配分での検討が必要である。
- ・ 受講生も大変熱心であり、本講座は継続して実施することが重要であることから、今後も講座を実施し、資質・指導力の向上につなげることが必要である。

問合せ先

新潟県教育庁下越教育事務所社会教育課（担当：武石 由紀） TEL:025-231-8361

事業名

〔平成23年度 子ども読書ボランティアリーダー養成講座（佐渡地区）〕

目的

子どもの読書活動を推進するため、読み聞かせ等のボランティアの更なる資質の向上を目指して講座等を開催し、地域におけるリーダーの育成とネットワークの構築を図る。

実施主体

新潟県教育庁生涯学習推進課・佐渡市立中央図書館

参加対象

子ども読書ボランティア活動に興味のある方

参加者数

延べ63名

回数

4回

日数

3日

時間

8時間

(各講座2時間)

場所

佐渡中央会館 研修室

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月5日(土) 13:30～15:30	子どもたちに豊かな本の世界を伝えるには	新潟大学 非常勤講師 錦 恵美子 様
	内容 方法	石井桃子氏のかつら文庫や秋田県の30(さんまる)運動について。講師の長年の文庫活動を通じた絵本のバックグラウンドとなるもの。何十年も読み継がれている良い絵本との出会いの大切さ。参考資料：『石井桃子全集』『サンタクロースを探し求めて』（岩波書店）[25名]	
2	期日・時間	テーマ	講師等
	11月19日(土) 10:00～12:00	ブックトークってなーに ～テーマの設け方と選書～	三条市生涯学習課 長谷川 優子 様
内容 方法	ブックトークとは本の紹介で、あるテーマのもとに、数冊以上の本を順次紹介していくやり方である。講師による実演の後、本の選び方、紹介の順番と方法の説明。受講者が各自1冊選び紹介文を書き、発表。 [13名]		
3	期日・時間	テーマ	講師等
	11月19日(土) 13:00～15:00	やってみようブックトーク(1) ～まずは一冊の本から～	三条市生涯学習課 長谷川 優子 様
内容 方法	「ともだち」というテーマに沿った自分の推薦する本について紹介文を作成し発表。ブックトークに組み立てる方法を学習。春・夏・秋・冬のテーマに応じた4班を編成し、ブックトークプログラムを作成。 [12名]		
4	期日・時間	テーマ	講師等
	11月26日(土) 13:30～15:30	やってみようブックトーク(2) ～ブックトーク演習と講評～	佐渡市立中央図書館 渡辺 日出子 館長
内容 方法	作成したプログラムに準じて発表。(一人約20分程度)その後、意見交換及び講評。 [13名]		

成果

- ・1回目の錦先生の講演会は、ボランティア活動をする人だけでなく、広く保育士や子育て中の母親等にも受講してもらった。幼いときから良い絵本を読んであげることがどんなに大切であるかをしっかりと心に刻み込むことができ有意義であった。
- ・2回～4回目は、今までこの講座で挑戦したことのないブックトークについて学び、発表する機会を与えられ、受講生は真剣に取り組むことができ大変好評であった。
- ・今年度は、2回目以降は実技があったせい、また様々な行事が重なったせい、参加者が少なく残念であった。

課題

問合せ先

佐渡市立中央図書館 (担当：渡辺 日出子) TEL：0259-63-2800

事業名 [平成23年度 上越地区 社会同和教育市町村巡回研修会]

目的 県民の同和問題や社会同和教育の在り方について理解を深め、部落差別の解決に向けての確かな実践を促すため、広く県内市町村を巡回して研修を行う。

実施主体 主催：新潟県教育委員会 主管：上越教育事務所社会教育課

参加対象 上越市（巡回重点地区）、糸魚川市、妙高市 **参加者数** 267名
 社会教育委員、公民館運営審議会委員、PTA関係者、
 社会教育関係団体・グループ関係者、人権擁護委員、
 民生委員（児童委員）、教育委員会職員等教育行政関係者、
 小・中・高・中等教育・特別支援学校関係職員 等

回数 1回 **日数** 1日 **時間** 3時間15分

場所 リージョンプラザ上越 コンサートホール

内容

回	期日・時間	テーマ	講師
	9月13日（火） 13:15～16:30	「同和問題の解決に向けて ～今、私にできること～」	部落解放同盟新潟県連合会 上越支部長 渡邊 秀明 様
1	内容・方法	1 開会 13:15～13:40 開会のあいさつ 上越教育事務所長 祝 辞 上越市教育委員会教育長 趣旨説明 県教育庁生涯学習推進課成人教育係 2 講義 13:40～15:10 講 義 「新潟県における差別の実態と社会同和教育に期待すること」 講 師 部落解放同盟新潟県連合会上越支部長 渡邊 秀明 様 ◎講義では、同和問題の解決に向けて、私たちが考えていかなければならない内容について、講師自身の貴重な体験を基に、多くの具体的な事例を交えて分かりやすくお話いただいた。参加者は、講師自身の部落差別の解決に向けた熱い思いや鋭い人権感覚、さらには部落差別に対する考えや対応をお聞きすることができ、強く胸に迫るものがあったものとする。 3 グループ協議 15:30～16:30 テーマ 「同和問題の解決に向けて ～今、私にできること～」 ※グループ協議終了後、アンケート記入。流れ解散 ◎グループ協議では、自分自身の今までの同和問題への取組を振り返りながら、今後、同和問題の解決に向けて、自分自身がしていかなければならないことについて話し合った。	
成 果		・今回は、差別の体験をされた立場の方を講師として迎え、差別の実態と社会教育に期待することについて講義いただくように企画した。講義の内容が参加者一人一人の感性に強く訴えるものであり、目的達成に向けた素晴らしい成果をあげることができた。 ・差別を見抜き、差別をしない、差別を許さない社会にするためには、学校と地域社会が力を合わせ、地域ぐるみで差別を解決していくことが大切であり、そのためには一人一人の確かな行動力が必要となる。今後の各自の行動の在り方を考えてもらうための機会と場を設定できたことはとてもよかった。 ・参加し易さを考慮して、終日開催から午後だけの日程で開催するようにした。昨年度までに比べ参加は容易になったと考えられるが、今後、より一層多くの市民の皆さんが参加し易い土曜日・日曜日の開催の可能性も検討していきたい。	
課 題			

問合せ先 新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課（担当：猪又英一） TEL:025-526-9377

事業名

〔平成23年度 小・中・特別支援学校PTA指導者研修会〕

目的

PTA活動の活性化を図るため、小・中・中等教育・特別支援学校のPTA役員等を対象に研修を行い、指導者としての資質の向上を目指す。

実施主体

主催：新潟県教育委員会（主管：中越教育事務所）
共催：小千谷市教育委員会、刈羽村教育委員会

参加対象

小学校、中学校、特別支援学校PTAの役員及び教職員 **参加者数** 360名

回数

2回

日数

2日

時間

11時間20分

場所

小千谷市民会館（6/10） 刈羽村生涯学習推進センター・ラピカ（6/24）

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等								
1	①6月10日（金） 10：00～15：40	主体的に学び、行動するPTAを目指して	講師： 中越教育事務所スクールソーシャルワーカー 山岡 聡 様 ファシリテーター： 県生涯学習関係職員6名								
	②6月24日（金） 10：00～15：40										
	○ 日程										
	9:30 10:00 10:25 11:20 12:00 13:00 15:30 15:40										
	内容・方法	<table border="1"> <tr> <td>受付</td> <td>開会式</td> <td>PTA活動の手引き</td> <td>講義</td> <td>グループワーク（講義について）</td> <td>昼食</td> <td>グループワーク（各学校PTAの課題とその解決）</td> <td>閉会</td> </tr> </table>	受付	開会式	PTA活動の手引き	講義	グループワーク（講義について）	昼食	グループワーク（各学校PTAの課題とその解決）	閉会	
受付	開会式	PTA活動の手引き	講義	グループワーク（講義について）	昼食	グループワーク（各学校PTAの課題とその解決）	閉会				
	○ 講義題 「青少年のこころと大人の役割」										
	○ 協議 「課題解決のためのグループワーク」（6分散会 約30班 各グループ6名程度）										

成果

- ・中越地区は伝統として、1校1名以上の参加確保を維持してきたので、ここ3年間は参加人数も増え、高い参加率である。
- ・講義の後のグループワークでは、活発な協議とともに、情報交換も十分にできた。

会場	参加者（名）	校種	参加対象校数	参加校数	参加校率（%）	参加者（名）
小千谷市	151名（151）	小学校	216（218）	189（193）	87.5（88.9）	238（239）
刈羽村	209名（201）	中学校・特別支援等	108（108）	98（91）	90.7（84.3）	122（113）
計	360名（352）	計	324（326）	287（284）	88.6（87.4）	360（352）

（ ）は前年度を示す

課題

- ・研修会の効果を上げるためには1日参加が望ましいが、半日だけの参加者が多くなってきた。来年度は、1日研修の意義を開催要項に載せるなどして周知を図る必要がある。
- ・参加者数が多くなり、会場確保や運営が難しくなっており、複数参加に対する制限を設ける必要がある。

問合せ先

新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課（担当 渡邊善則） TEL：0258-38-2652

事業名

〔平成23年度 社会同和教育市町村巡回研修会〕

目的

同和問題の正しい理解を深め社会同和教育の実践を促すため、ひろく県内市町村を巡回して研修を行う。

実施主体主催：新潟県教育委員会（主管：中越教育事務所）
共催：南魚沼市・小千谷市・魚沼市・湯沢町の教育委員会**参加対象**

南魚沼市・小千谷市・魚沼市・湯沢町にお住まいお勤めの方（生涯学習・社会教育関係者、民生・児童委員、人権擁護委員、PTA・学校教育関係者等）

参加者数

115名

回数

1回

日数

1日

時間

3時間30分

場所

南魚沼市コミュニティーホールさわらび・大和公民館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	7月5日(火) 13:20～16:50	同和問題解消に向けて～今、何をすべきか	部落解放同盟新潟県連合会 相談役 長谷川 均 様
1	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開会式 ・開会挨拶 中越教育事務所長 ・祝辞 南魚沼市教育委員会教育長 ○ 説明「県教育委員会の社会同和教育における取組について」 県生涯学習推進課 社会教育主事 西川 昌宏 ○ 講義「県内の部落の歴史と現状」 部落解放同盟新潟県連合会 相談役 長谷川 均 様 ○ グループワーク「『同和問題解消に向けて』～今、何をすべきか」 17グループ（1班6～7名で編成）4会場に分散 ○ 閉会式 グループワーク会場毎に実施 	

成果

・対象4市町で広報誌によりPRしたことにより、大勢の参加者を集めることができた。アンケートによる参加者の評価は、「研修会に参加して良かった」との回答が約94%、「グループワークが参考になった」が98%であった。講義も事例に則した内容が好評で「初めて聞く話だった」の回答が3割を超えた。半日ではあったが、研修が深まり、人権教育、同和教育の啓発に大きな効果があった。

課題

・管内の市町村が実施している研修会は極めて少ない。中越管内の市町村にとって巡回研修会は、6年に一度しか回ってこない研修会である。一昨年より半日日程とし、参加者が大幅に増えているが、一層、一般住民の参加を増やすための方策を考える必要があり、開催回数や内容を含め検討していく。

問合せ先

新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課（担当：堀 隆行） TEL 0258-38-2652

事業名

〔平成23年度 小・中・特別支援学校PTA指導者研修会〕

目的

PTA活動の活性化を図るため、小・中・中等教育・特別支援学校のPTA役員等を対象にPTA活動に関する研修を行い、指導者としての資質の向上をめざす。

実施主体

主催：新潟県教育委員会(主管：下越教育事務所) 共催：開催市教育委員会

参加対象

小・中・中等・特別支援学校のPTA役員及び会員、教職員、行政職員等

参加者数

239人
(佐渡会場91人、下越会場148人)

回数

各1回

日数

各1日

時間

各5時間

場所

1回目：佐渡市トキのむら元気館 2回目：阿賀野市ふれあい会館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月16日 5時間	『主体的に学び行動するPTAをめざして』 ～子育てを見つめて「子どものしつけ・親の役割」～	子育てエッセイスト ちやい 文々 様
	内容・方法	○講演 『家族で育むしあわせの種』 ～気持ちに寄り添うコミュニケーション・スキル～ 主な講演内容 ・アイスブレイキングなど、コミュニケーション・スキルの講話とその手法 ・保護者の持てるキャパシティと子育ての在り方 ○分散会(ワークショップ) 主な内容 ・グループで話し合いのテーマを1つ選んで、ダイヤモンドランキング手法でワークショップにより議論を深めた。最後にグループの代表者が話し合いの概要を発表した。	
2	6月24日 5時間	『主体的に学び行動するPTAをめざして』 ～子育てを見つめて「子どものしつけ・親の役割」～	子育てエッセイスト ちやい 文々 様
	内容・方法	○講演 『家族で育むしあわせの種』 ～気持ちに寄り添うコミュニケーション・スキル～ 主な講演内容 ・アイスブレイキングなど、コミュニケーション・スキルの講話とその手法 ・保護者の持てるキャパシティと子育ての在り方 ○分散会(ワークショップ) 主な内容 ・グループで話し合いのテーマを1つ選んで、ダイヤモンドランキング手法でワークショップにより議論を深めた。最後にグループの代表者が話し合いの概要を発表した。	

成果

・参加者一人一人の考えを引き出し、子育て問題を考え直すきっかけになった。また、PTAの会員同士のコミュニケーションに役立つ話だった。分散会はダイヤモンドランキングの手法で作り上げる意見集約の仕方を学ぶワークショップをした。参加者の93% (佐渡) 97% (下越) から「大変よい・よい」との評価を得た。

課題

・今回のワークショップによる話し合いが、各単位PTAにおいても活用されることが求められる。今回のダイヤモンドランキングは手法が単純であるため、事前の打ち合わせがなくともできるワークショップである。

問合せ先

新潟県教育庁下越教育事務所社会教育課 (担当：渡邊 和徳) TEL：025-231-8361

事業名	〔生涯学習職員研修「基礎研修会」〕		
目的	生涯学習・社会教育関係職員等の資質向上を図るために必要な基礎的・基本的事項について研修し、生涯学習の推進を図る。		
実施主体	新潟県立生涯学習推進センター		
参加対象	市町村生涯学習・社会教育関係職員等	参加者数	延べ95名
回数	3回	日数	4日
場所	新潟県立生涯学習推進センター大研修室・コンピュータ室		
内容			

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月18日(水) ～19日(木) 10:30～16:30	生涯学習・社会教育事業への挑戦 「はじめの一步から」	講師：新潟県立生涯学習推進センター 所長 中島 憲一 課長 諏訪部 寛栄 発表：胎内市教育委員会生涯学習課 主任 新村 和宏 様
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、基礎研に参加した方から1年間の取組の様子や苦勞を聞いた。その後グループワーク。 ・「生涯学習における社会教育の役割」「事業の企画及びプログラム作成の視点と手順」を講義した。 ・グループ内で事業計画及び学習展開計画を作成し発表した。 	
2	7月13日(火) ～7月15日(金) の中の1日	実践につなげよう	講師：新潟県立生涯学習推進センター 副参事 内藤 薫
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画のチェックとリデザイン(再検討)の意義やその仕方を説明。その後、各自が作成した事業計画をグループワークしながら再検討し、作成し直した。 	
3	11月9日(火) ～12日(金) の中の1日	広報・広聴のあり方を考える	講師：新潟県立生涯学習推進センター 副参事 内藤 薫 副参事 安田 毅 社会教育主事 渡辺 亜紀
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育における広報・広聴について説明した。その後、著作権法35条を中心に広報における著作権の注意を説明した。 ・チラシづくりのポイントを説明した。 	

- 成果**
- ・全てセンター職員が講師となることにより、その都度話し合いながら参加者のためになる研修を目指すことができた。
 - ・研修に参加して成果があった91.6%、今後に役立つ93.2%と研修に満足している。
- 課題**
- ・グループワークが少ないという声がある。参加者同士の話し合いを工夫していきたい。

問合せ先 新潟県立生涯学習推進センター学習振興課(担当：田邊寿夫) TEL：025-284-6110

事業名

〔社会教育・公民館職員スキルアップ研修会〕

目的

社会教育・公民館関係職員等のスキルアップを図るために必要な研修を実施し、生涯学習・社会教育の推進を図る。

実施主体

新潟県立生涯学習推進センター

参加対象

市町村生涯学習・社会教育関係職員等

参加者数

23名

回数

1回

日数

1日

時間

5時間

場所

新潟県立生涯学習推進センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月16日(木) 10:00～16:00	「社会教育・公民館職員等のスキルアップと実践意欲を高める。」	新潟大学教授 篠田 邦彦 様 新潟大学非常勤講師 篠田 浩子 様
	午前 演習「効果的で安全な中高齢者の運動指導法について」 (10:00～11:00) ウォーキングの理論と高齢者における諸注意等をご自分の講師経験を交えて説明した。また、自分の体を知ってもらう「気づきのプログラム」について、アライメントチェックをとおして体験した。自分の身体のゆがみをチェックし、それを軽減するための運動を体験させながら、企画づくりでは、高齢者がどうしたいのかニーズをつかんだプログラムが大切であるをご指導いただいた。	講師：新潟大学教授 篠田邦彦 様	
	講義「高齢者を対象とした事業を成功に導く企画とは」 (11:00～12:00) 高齢者のイメージをどう捉えるか、その概念を崩すことから始まった。キーワードは、「努力と辛抱」である。公民館事業は、保健福祉課等と同じような取組をしていることがある。そこで、新潟市の公民館の事例を挙げて、縦割りの壁を取り払い行政や大学等と連携することを提案された。それぞれの得意分野を生かした協働の取組を学ぶことができた。また、アンケート等の評価の解釈の仕方では、マイナスの評価も紳士的に受け止めることが大切であるをご指導いただいた。		
	午後 演習「グループワーク」 (13:00～16:00) 高齢者の「生きがい・健康づくり」事業について、行動変容モデルを説明しながら演習を行った。①今、取り組んでいる事業のテーマ、②各地域または各個人の状況（ニーズとバリア）の調整を2人組になって説明したり情報交換したりした。バリアを何とかするとワクワクした事業になり、そのアプローチの仕方を学ぶことができた。	講師：新潟大学教授 篠田邦彦 様 新潟大学非常勤講師 篠田 浩子 様	

成果

- ・新規事業の研修であったが、高齢者対応の企画づくりのポイントをニーズとバリアの考え方と捉え方をおして学ぶことができた。研修の満足度でも90%の方が成果があったと答えている。
- ・事業計画づくりは、参加者にとって仕事と直接結びついている課題である。講師だけでなくグループワークをおして、参加者同士が情報交換しながら企画づくりのヒントを学び合うことができた。

課題

- ・基礎研修会を終えた方を対象とした研修会にしたが、市町村では3年サイクルくらいで配置換えが行われる実情があり、参加者の集まり具合が芳しくなかった（最終的には、高齢者の企画づくりに関心のある方に募集を変更した）。
- ・市町村だけでなくNPO等にも対象者を広げ、企画力をスキルアップさせる研修会として実施する。

問合せ先

新潟県立生涯学習推進センター学習振興課（担当：田邊寿夫）TEL：025-284-6110

事業名

〔リーダー等研修会〕

目的

新潟県のような地域課題に対応した生涯学習・社会教育の推進が求められている中で、課長・係長・公民館長・社会教育主事等の専門性を高め、資質・指導力の更なる向上を講義と演習で図る。

実施主体

新潟県立生涯学習推進センター

参加対象

市町村生涯学習・社会教育関係課長・係長、公民館長、県市町村において社会教育主事として発令されている方

参加者数

11 / 10 新潟県立生涯学習推進センター：15名

11 / 21 長岡地域振興局：24名

回数

1回

日数

1日

時間

5時間

場所

新潟県立生涯学習推進センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月10日(木) 11月21日(月) 10:00～16:00	「リーダーとしてのスキルアップを図り、実践化につなげる。」	MAX・ZEN performance consultants 代表取締役 丸山 結香 様
	内容・方法	<p>講義 「リーダー・コーディネーターとしての資質・指導力の向上①」 (10:00～12:00)</p> <p>急速に変化していく社会では、その変化に適用し自ら変わり、チームメンバーをサポート、フォローできる「ニューリーダー」が求められている。そのニューリーダー論についてリーマンショック後の日本の変化やコンビニのポスシステムを例に挙げて分かり易く説明した。</p> <p>講義・演習 「リーダー・コーディネーターとしての資質・指導力の向上②」 (13:00～16:00)</p> <p>「引き出す」力として、(他者との) コーチングやセルフコーチングの手法、質問力について学んだ。特に質問については、二者択一のクローズドQと自由に具体的に答えるオープンQをロールプレイで体験しながら、その効果について確認することができた。また、目的別の質問例を学ぶことによって、明日からすぐに使うことができる資料となった。</p>	

成果

・研修会の満足度では、100%の受講者が成果があったと答えている。丸山先生の具体的で巧みな話術に引き込まれていた。また、受講者全員が今後の活動に役立つと答えている。ロールプレイによる演習により、質問の仕方の実際について体験することができた。

課題

・市町村の行政担当者の参加者が少なかった。今後、リーダー等研修会の在り方や時期について検討する必要がある。

問合せ先

新潟県立生涯学習推進センター学習振興課 (担当：田邊寿夫) TEL：025-284-6110

事業名 [古文書解読講座]

目的 古文書の解読を通じて文書等の保存についての普及・啓発を図るとともに、新潟県や県内各地域の歴史に対する理解を深める学習機会を県民に提供する。

実施主体 新潟県立文書館

参加対象 一般県民 **参加者数** 夏季139名、出張45名、秋季179名

回数 3回 **日数** 各3日 **時間** 各6時間

場所 夏季・秋季：新潟県立文書館 出張：糸魚川市民会館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月24日 ～7月8日 (毎週金曜日) 13:30～15:30	古文書初級解読講座 (夏季)	講師： 新潟県立文書館 副館長 余湖明彦
	内容・方法	県内各地域に残された近世文書をテキストとして用い、プロジェクターを活用しながら文字の解読及び時代背景や関連事項の解説を行った。	
2	9月2日 ～9月16日 (毎週金曜日) 13:30～15:30	古文書解読出張講座	講師： 新潟県立文書館 副館長 余湖明彦
	内容・方法	糸魚川地域に残された近世文書をテキストとして用い、プロジェクターを活用しながら文字の解読及び時代背景や関連事項の解説を行った。	
3	11月11日 ～11月25日 (毎週金曜日) 13:30～15:30	古文書初級解読講座 (秋季)	講師： 新潟県立文書館 嘱託員 亀井功
	内容・方法	県内各地域に残された近世文書をテキストとして用い、プロジェクターを活用しながら文字の解読及び時代背景や関連事項の解説を行った。	

成果 ・参加者は昨年度に比べて大幅に増加した。また、初めての受講者も多かったため、秋季講座では初心者向けに古文書学習の第一歩から説明し、大変好評であった。

課題 特記事項なし

問合せ先 新潟県立文書館 TEL：025-284-6011

事業名 [文書館講座]

目的 所蔵資料を主に用い、特定のテーマに沿った新潟県の歴史講座を提供する。

実施主体 新潟県立文書館

参加対象 一般県民

参加者数 1回123名、2回161名、3回153名

回数 3回

日数 4日

時間 8時間

場所 新潟県立文書館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月21日(土) 29日(日) 13:30～15:30	第1回文書館講座 「近世村落の世相～越後の村で起こっていたこと～」	講師： 新潟県立文書館 前嘱託員 菅瀬亮司
	内容・方法	梶村(現上越市)の文書からは百姓の欠落一件を取り上げ、池平村(現魚沼市)の文書からは村役人選出の変遷をたどり、当時の人々の意識と生活にふれる。	
2	10月22日(土) 13:30～15:30	第2回文書館講座 「絵地図から歴史を読み解く～荘園絵図から地籍図まで～」	講師： 国立歴史民俗博物館 准教授 高橋一樹 様
	内容・方法	中世の荘園絵図や近世の国絵図・村絵図、近代の地籍図など様々な絵図について、越後の事例を取り上げながら時代ごとの特徴を捉え、絵図ならではの歴史情報を解説する。	
3	12月3日(土) 13:30～15:30	第3回文書館講座 「佐渡へ漂着した異国船～ペリー来航以前の幕末騒動記～」	講師： 新潟県立文書館 副館長 余湖明彦
	内容・方法	ペリー来航前に起こった佐渡への異国船漂着事件について、小泉蒼軒が新発田藩に報告した史料を題材として解説する。	

成果 ・前年度の学習会を改めて、古文書の解説よりも、古文書を通じて歴史的な背景を学ぶ講座としたことで、誰でも気軽に参加できる講座となった。

課題 特記事項なし

問合せ先 新潟県立文書館 TEL：025-284-6011

事業名 [朝から古文書]

目的 平易な古文書解説講座の提供と、家庭での節電対策の一環として実施。

実施主体 新潟県立文書館

参加対象 一般県民

参加者数 124名(1回～5回の合計)

回数 1回

日数 5日

時間 5時間

場所 新潟県立文書館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7月27日 ～8月31日 (お盆期間を除く毎週水曜日) 9:00～10:00	朝から古文書～「佐渡金銀山絵巻」を読む!～	講師： 新潟県立文書館 副館長 余湖明彦
	内容・方法	佐渡金銀山絵巻の詞書を読み解きながら、山から鉱石を採掘して小判をつくる工程などを学ぶ。	

成果 ・特定のテーマによる短時間のミニ講座ということで参加者からも大変好評であり、次年度も継続する予定である。

課題 特記事項なし

問合せ先 新潟県立文書館 TEL：025-284-6011

事業名

〔越前浜チャレンジセミナー〕

目的

青少年指導者としての専門的な知識・技術を体験的に学び、地域や職場における指導者の養成及び資質の向上を図る。

実施主体

新潟県立青少年研修センター

参加対象

18歳以上の青年、青少年指導者等（高校生を除く）

参加者数

延べ41名

回数

3回

日数

各回 1泊2日

場所

新潟県立青少年研修センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月14日(土)～ 5月15日(日)	第1回レクリエーション編	ひの社会教育センター 中能 孝則 様
	内容・方法	・レクリエーション実習をとおして、基礎的なレクリエーションの指導法を研修するとともに望ましい人間関係のあり方について学ぶ。	
2	7月 9日(土)～ 7月10日(日)	第2回初心者のための野外活動入門	新潟県自然観察指導員 山田 三枝 様 ホールアース自然学校 遠藤 亮 様
	内容・方法	・初心者が参加しやすい活動に取り組み、自然にふれあう楽しさを体験しながら野外活動の基本的な知識・技術を身につける。	
3	9月10日(土)～ 9月11日(日)	第3回環境教育指導者養成編	佐潟水鳥湿地センター 佐藤 安男 様 新潟県山岳協会 後藤 邦子 様
	内容・方法	・角田山麓・佐潟周辺を歩きながら、身近にある豊かな自然を見つめ、体験をとおして自然環境の大切さを考える。	

成果

・地域や職場でのリーダーが事業を企画する際の知識・技術及びヒントを十分に提供できた内容である。

課題

・参加対象を明確にし、それに合わせた研修内容や広報の仕方の工夫していくことが必要である。

問合せ先

新潟県立青少年研修センター 研修課 TEL：0256-77-2111

事業名

〔家族でとびだせ！おもしろ体験ランド〕

目的

家族の絆を強めるとともに、地域での指導力の向上を図る。

実施主体

新潟県立青少年研修センター

参加対象

家族、親子（子どもは小学生以上）

参加者数

延べ 218名

回数

3回

日数

各回1泊2日

場所

新潟県立青少年研修センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7月23日(土)～ 7月24日(日)	第1回 「家族で仲良く、作ろう夏の思い出！」	青少年研修センター 研修課職員
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・海浜活動（レクリエーション・スイカ割り等）とキャンプファイヤー、地引き網体験、農作物収穫体験（枝豆・トウモロコシ・マクワウリ）などをおして、親子間の絆を深め、家族間のコミュニケーションを図る。 ・青少年指導者として、夏の体験活動の知識と実践力を身に付ける。 	
2	10月15日(土)～ 10月16日(日)	第2回 「家族で仲良く、作ろう秋の思い出！」	青少年研修センター 研修課職員
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験（芋掘り）とダンボールスモーカー・ジャックオーランタン作り、野外炊事などをおして、親子間の絆を深め、家族間のコミュニケーションを図る。 ・青少年指導者として、秋の体験活動の知識と実践力を身につける。 	
3	2月25日(土)～ 2月26日(日)	第3回 「家族で仲良く、作ろう冬の思い出！」	新潟県立大学 教授 戸潤 幸夫 様 青少年研修センター 研修課職員
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・クラフト（ガムテープバック作りや栗作り）をおして物作りの楽しさを感じ、インドアアスレチックやキャンドルファイヤー、餅つきに取り組むことで家族・親子の絆を深める。 ・青少年指導者として、冬の体験活動の知識と実践力を身につける。 	

成果

- ・親子で協力して取り組むメニューを用意したことで、参加者の多くから家族のふれあいの時間がとれたと好評であった
- ・地域の産業や自然を生かした活動をしたことにより、参加した親からPTA活動の参考にしたいとの感想が寄せられた。

課題

- ・事業参加を機会に子ども会等の行事に積極的に参加する意識が定着するように、内容や取り組み方法を考えていくことが必要である。今年度も前年度に引き続き、参加者同士のネットワーク作りを期待し、希望した参加家族には同室同宿泊を試みた。

問合せ先

新潟県立青少年研修センター 研修課 TEL 0256-77-2111

事業名 [青少年指導者グループワーク研修]

目的 グループワークトレーニング研修をとおして、青少年指導者の資質や指導力の向上を図る。

実施主体 新潟県立青少年研修センター

参加対象 18歳以上（高校生を除く）

参加者数 29名

回数 1回 **日数** 各回1泊2日

場所 新潟県立青少年研修センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月19日（土）～ 11月20日（日）	ラボラトリー形式の体験学習法であるグループワークトレーニングを体験する。	日本グループワークトレーニング協会 三好 良子 様
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・アイス・ブレイクについて学ぶ。 ・セルフ・エンパワーメントについて学ぶ。 ・サブ・パーソナリティについて学ぶ。 ・ソーシャル・スタイルについて学ぶ。 ・他者理解・他者対応について学ぶ。 	

成果

- ・多くの受講者から期待していた以上の内容であったとの評価であった。
- ・研修内容は減らさずに研修日程を2泊3日から1泊2日にして2年目であったが参加しやすくなってよかったとの感想があった。

課題

- ・自らの技量をさらに高めたい参加者が多数参加した。また、新規参加者もいることをふまえれば関心の高さが想像できる。受講者からはアドバイザーやライセンス取得に意欲的なことから、研修内容の検討等が必要である。

問合せ先 新潟県立青少年研修センター 研修課 TEL：0256-77-2111

事業

〔物づくり体験塾in越前浜〕

目的

当センター近隣地域で活動されている作家の方々に指導を依頼し、物づくりの様々な創作活動の研修を行うことで、地域との連携・協力体制を深め、さらに協働して青少年育成に取り組む気運を高める

実施主体

新潟県立青少年研修センター

参加対象

小学生以上の県民

参加者数

延べ42名

回数

2回

日数

各回 1日

場所

新潟県立青少年研修センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月6日(日)	箸袋付きミニお弁当マット染め体験	染物作家 星名 康弘 様
	内容・方法	・身近な材料（センター敷地内の桜の葉）を染料に使い、第2回の内容と関連を持たせたお弁当マット染めを体験する。	
2	期日・時間	テーマ	講師等
	12月4日(日)	県内産の木（杉）を使った箸づくり体験	山と人をつなぐコーディネーター 高島 かよ子 様
	内容・方法	・県内産の木（杉）を使った箸づくりをとおして、森林や三条地場産刃物に対する興味・関心を高める。	

成果

・参加者は、「物を作る楽しさ」と「物を使う楽しさ」という物づくりの醍醐味を十分味わうことができた。

課題

・2つの事業を1回で案内することには無理があるので、次年度は担当者を増やしてそれぞれの回ごとに広報する。

問合せ先

新潟県立青少年研修センター 研修課 TEL：0256-77-2111

事業名

〔カヌーに親しもう〕

目的

カヌーの楽しさを体験し、海洋スポーツに対する関心を高める。
家族一緒に活動を通して、ふれあいを深める。

実施主体

新潟県少年自然の家

参加対象

小学校4年生～中学生を含む家族

参加者数

149名

回数

4回

日数

2日

時間

各回午前・午後とも3時間

場所

胎内川河口周辺・新潟県少年自然の家艇庫前

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7月23日（土） 午前の部 9:00～12:00 午後の部 13:30～16:30	さわやかな風を 家族と一緒に感じてみませんか！	新潟県少年自然の家職員 非常勤職員
2	内容 ・ 方法	○ 前半は胎内川及び河口でのカヌーの初歩的な操作方法を習得し、後半は川や海をカヌーで漕ぐことを通して、自然の様子を観察し、家族のふれあいを深めた。 ○ 午前の部は天候がよく、家族で励まし協力しながら全員が日本海まで漕ぎ出し、浜辺に上陸した。午後の部は河口に白波が立ったため、上流へ舵を取り中州に上陸し川の流れを楽しみながらカヌー体験をした。	
回	期日・時間	テーマ	講師等
3	8月6日（土） 午前の部 9:00～12:00 午後の部 13:30～16:30	さわやかな風を 家族と一緒に感じてみませんか！	新潟県少年自然の家職員 非常勤職員 カヌー指導ボランティア
4	内容 ・ 方法	○ 前半は胎内川及び河口でのカヌーの初歩的な操作方法を習得し、後半は川や海をカヌーで漕ぐことを通して、自然の様子を観察し、家族のふれあいを深めた。 ○ 午前の部は好天に恵まれ、家族で協力し海まで漕ぎ出し、日本海でのカヌーを楽しんだ。午後の部は、波が出てきたため、個人の技能差により川コースと海コースに分かれ、波に挑戦したり自分の力を試したりして、カヌーの楽しさを体験した。	

成果

- ・今年度も昨年同様、午前の部、午後の部を設け、1日に2回実施した。両日とも夏休み開催だったことで多数の応募があり、参加者はカヌーの楽しさを十分に体験し、家族とのふれあいを満喫した。定員を超え、抽選を行うほどの人気であった。

課題

- ・天候に左右される事業である。3時間のカヌー体験では、最低2つの体験コースが必要である。家族や個人の技能レベルに合わせて、海にチャレンジコースと川でゆったりコースを設定した。コースが分かれたときのスタッフの人員配置で、安全管理が絶対条件となる中、非常勤職員やカヌー指導ボランティアの存在は大きい。来年度以降もスタッフの充実は欠かせない。

問合せ先

新潟県少年自然の家 指導課（担当：中谷 記子） TEL：0254-46-2224

事業名

〔 自然・ふれあい！家族のつどい 〕

目的

春・秋・冬の自然体験を通して、家族のふれあいを深め豊かな情操や社会性を育てる。

実施主体

新潟県少年自然の家

参加対象

小・中学生を含む家族

参加者数

204名

回数

3回

日数

各回1泊2日

時間

各回24時間

場所

新潟県少年自然の家（胎内市乙字大日裏）

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	4月23日(土) ～4月24日(日)	さあ春だ！山菜採り&よもぎもちづくり	新潟県少年自然の家職員 地元の女性
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の家周辺で採れる山菜について説明をした後、山菜採りで自然とのふれあいを楽しんだ。採取したよもぎでよもぎもちづくりに挑戦し、春の味を満喫した。 ○ 自然の家の赤松林でグラウンドゴルフを行い、家族のふれあいや他家族との交流を深めた。 	
2	9月10日(土) ～9月11日(日)	味覚の秋！スポーツの秋！胎内で楽しもう！！ ～米粉ピザづくりとカヌー体験～	新潟県少年自然の家職員 非常勤職員 カヌー指導ボランティア
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 胎内市が発祥とされる米粉を使って、ピザやパスタのアウトドアクッキングを行い、胎内市の秋の味覚を楽しんだ。 ○ 胎内川河口のカヌー場でカヌーをしたり、釣りをしたりして家族のふれあいを深めるとともに、自然の豊かさを体感した。 	
3	12月3日(土) ～12月4日(日)	サンタが自然の家にやってきた！ みんなで楽しいクリスマス！！ ～クリスマスパーティーと グラスキャンドルファイア、リースづくり等～	新潟県少年自然の家職員
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ クリスマスクッキングやグラスキャンドルファイアを通じて、家族のふれあいや他家族との交流を深めた。 ○ 遊歩道を散策して、つるや木の実を集め、それら自然素材を利用したクリスマスリースづくりを通して、冬の自然に親しんだ。 	

成果

- ・参加者から、様々な自然体験活動を通して家族のふれあいが深まり他家族とかかわりがもてたり、貴重な体験ができたことと高い満足度を得ている。
- ・県外からの参加者があったり、家族同士で誘い合って参加する様子が見られたりする中で、参加家族数が増加してきている。

課題

- ・広く事業を広報し、より多くの初参加家族の獲得を目指す。
- ・アンケートに寄せられる参加者の声を参考に、事業改善を図っていく。

問合せ先

新潟県少年自然の家 指導課（担当：伊藤 彰） TEL:0254-46-2224

事業名

〔映画鑑賞会〕

目的

- ・ 展覧会に関連のある映画を上映し、鑑賞活動を深める一助とする。
- ・ 国内外の名画や記録映画を上映し、美術館に親しむ機会とする。

実施主体

新潟県立近代美術館

参加対象

一般

参加者数

240名

回数

5回

日数

8日

時間

30分～約2時間

場所

新潟県立近代美術館講堂

内容

回	期日・時間	テーマ
1	4月30日(土) 1回目 10時～2回目 14時～	続・映画で見る昭和30年代の日本・家族の幸福「夫婦編」
	内容	昭和30年代の家族のこころ、きずな、愛情を、「夫婦」・「親子」・「家族」編でまとめた記録映画。「今どきの嫁」、ニュース映画：「クイズ大流行」他
2	期日・時間	テーマ
	5月21日(土) 1回目 10時～2回目 14時～	続・映画で見る昭和30年代の日本・家族の幸福「家族編」
内容	昭和30年代の家族のこころ、きずな、愛情を、「夫婦」・「親子」・「家族」編でまとめた記録映画。ニュース映画：「皇太子妃に正田美智子さん」、「実を結んだ集団農場」他	
3	期日・時間	テーマ
	7月23日(土) 1回目 10時～2回目 14時～	巴里祭
内容	パリ情緒豊かな下町を舞台に、革命記念日の祭り気分沸き立つ街の情景を描く。M・ジョーベールの音楽も忘れ難い名作。	
4	期日・時間	テーマ
	8月20日(土) 1回目 10時～2回目 14時～	イースター・パレード
内容	パートナーに逃げられたダンサーがスカウトした女性を一流のダンサーに育て上げようとする。戦後最初に公開された本格的なテクニカラー・ミュージカル。	
5	期日・時間	テーマ
	9月4日(日) 9月18日(日) 10月2日(日) 10月8日(日)	名作アンコール上映『芸術百話』シリーズ 「桃李の門「日本への返事」 「嵐と黙示録」「パトロンの言葉」 「ショパンとドラクロワ」「モーツァルトとベートーヴェン」 「版画の東西 浮世絵①」「歌麿・北斎・広重 浮世絵②」
内容	近代美術館初代館長 前川誠郎氏監修の番組 (TeNY 制作) の名場面を上映。	

成果

- ・ 企画展に対応し、展覧会をより深く鑑賞していただける上映会を用意した結果、集客も多く好評であった。

課題

- ・ 全て無料で鑑賞できるようになってはいたが、場合によっては企画展の半券持参にして確実に展覧会の鑑賞と結びつくようなシステム作りが必要である。

問合せ先

新潟県立近代美術館学芸課

電話：0258-28-4112

事業名	〔美術鑑賞講座〕		
目的	美術に関する講座を行い、美術館や美術作品に親しむ機会とする。		
実施主体	新潟県立近代美術館		
参加対象	一般	参加者数	178名
回数	8回	日数	のべ8日
場所	新潟県立近代美術館講堂		
内容			

回	期日・時間	テーマ
1	5月14日(土)14時～	日本画の見方 ～秘蔵の日本画名品展を10倍楽しむ
	内容	企画展『秘蔵の日本画名品展』の作品について、画題や技法、作品形式などわかりやすく紹介。
2	5月28日(土)14時～	新潟の洋画と彫刻―戦前を中心に
	内容	常設展「新潟洋画事始め」にあわせ、小山正太郎から阿部展也にいたる新潟の洋画の歴史、そして羽下修三や戸張幸男の彫刻について紹介。
3	7月9日(土)14時～	描かれたAnimal ―花鳥画・動物画の世界
	内容	常設展「Animal! Animal! Animal!」にあわせ、古来より描かれてきた動物画・花鳥画の世界を、当館所蔵作品を交えながら紹介。
4	7月16日(土)14時～	ちひろの愛した画家たち
	内容	企画展「いわさきちひろ展」にあわせ、ちひろが愛し、影響を受けた画家たち―中谷泰、マリローランサン、ケーテ・コルヴィッツらの作品と生涯について紹介。
5	9月3日(土)14時～	国家有用の美術
	内容	企画展「美の軌跡―デューラーから中村彝まで 前川誠郎の美学」にあわせ、当館所蔵の小山正太郎と師フォンタネージの作品から明治初期の西洋画導入の様相を再見。
6	9月12日(日)14時～	デューラーの旅
	内容	企画展「美の軌跡―デューラーから中村彝まで 前川誠郎の美学」にあわせ、ドイツ・ルネサンスを代表するアルブレヒト・デューラーの業績をイタリアやネーデルランド旅行のエピソードを交えながら紹介。
7	9月17日(土)14時～	モネとロダン―近代美術の革命者
	内容	19世紀のフランスで絵画と彫刻を変革したモネとロダンの芸術を紹介。
8	10月1日(土)14時～	ジャポニスム ―江戸への眼差し
	内容	20世紀末にヨーロッパを席卷したジャポニスムが、どのように始まり、そしてどのように形を変えていったのかを、絵画や工芸作品を通じて紹介。

成果	・企画展に対応し、展覧会を含め、より質の高い学習機会を県民に提供できた。 参加者からもおおむね好意的な意見が寄せられた。
課題	・講座が専門的である講座と一般的で親しみやすい入門的な講座など内容を工夫して、より多くの人たちに美術文化に接してもらう機会を提供する必要がある。

問合せ先 新潟県立近代美術館学芸課 電話：0258-28-4112

事業名	〔特別イベント（講演会、コンサート等）〕		
目的	・講演会、コンサート等を行いより深く、展覧会を味わう機会とする。 ・社会教育、学校教育との連携を深め、県民の美術を愛好する資質の向上に貢献する。		
実施主体	新潟県立近代美術館		
参加対象	一般	参加者数	1045名
回数	6回	日数	6日
		時間	30分から90分
場所	新潟県立近代美術館 講堂、エントランスホール		
内容			

回	期 日	テーマ	講師等
1	7月23日(土)	講演会「母、ちひろが絵に込めた願い」	ちひろ美術館顧問 松本 猛様
2	8月14日(日)	コンサート「ちひろの愛した音楽」	新潟大学非常勤講師 遠藤 吉比古様
3	6月19日(土)	コンサート「アフタヌーン・ショパン」	ピアニスト 高木 明子様
4	9月16日(金)	キャンドルナイト	
5	11月20日(日)	コンサート「長岡少年少女合唱団ミニコンサート」	長岡少年少女合唱団
6	12月3日(土)	室内楽ミニコンサート	アンサンブル・オビリー

成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会を別の視点で学ぶ、より深く質の高い機会を県民に提供できた。参加者希望者も多く、好評であった。 ・協力校の児童の制作したキャンドルカバーが、夜の千秋の森公園お花畑を彩り、それを鑑賞する多くの家族連れが見られた。
------------	---

問合せ先 新潟県立近代美術館学芸課 電話：0258-28-4112

事業名

〔 出 前 講 座 〕

目的

美術館の社会的使命達成に向け、美術館が持つ人的資源を活用し、広く県民に、新たな発見と感動を提供し、創造力を育む機会とする。

実施主体

新潟県立近代美術館

参加対象

一般及び児童生徒

参加者数

673名

回数

20回

日数

20日

時間

30分から90分

場所

県内16会場(近美会場を含む)

内容

	期 日	講座名	参加者・会場 等
1	6月 3日 金	日本画の見方	見附市立葛巻小学校6年生児童・同校
2	6月15日 水	まわれ！ ペットボトル風見鶏	見附市立葛巻小学校4年生児童、保護者・同校
3	6月16日 木	デザインって何	魚沼市立湯之谷中学校3年生・同校
4	6月18日 土	つんで並べて 美術館の舞台裏探検	上川西児童館・近美
5	6月22日 水	マチスの切り絵に迫る	長岡市立石坂小学校他・近美講座室
6	6月28日 火	つんでならべて形づくり	新発田市七葉小学校3年生・同校
7	6月28日 火	動物を描く	新発田市七葉小学校4年生・同校
8	7月 6日 水	つんで並べて 美術館の野外展示探検	長岡市立小国中学校区特別支援学級児童・近美
9	7月13日 水	つんでならべて形づくり	上越市にこここ保育園・同園
10	7月15日 金	マチスの切り絵に迫る	県立はまなす特別支援学校2年生・同校
11	7月24日 日	つんでならべて形づくり・にじみで光のアート	塩沢金城わかば児童館児童、保護者・同館
12	8月24日 水	つんでならべて形づくり・にじみで光のアート	胎内市教研図工美術部・胎内市立胎内小学校
13	8月28日 日	にじみで光のアート	子育ての駅 ちびっ子広場(長岡) 未就学児、保護者・同広場
14	9月 6日 火	つんで並べて・アサガオでポン	長岡市立大島小学校特別支援学級児童、保護者・同校
15	9月12日 月	マチスの切り絵に迫る	県立小出特別支援学校ふれあいの丘分校2年生・同校
16	9月16日 金	デザインって何	南魚沼市立五十沢中学校3年・同校
17	9月11日 日	戦後日本写真史講座	長岡市立北地域図書館募集参加者
18	10月23日 日	光のアート・マチスの切り絵に迫る	十日町市立橘小学校1～6年参加希望児童、保護者・同校
19	11月 5日 土	つんでならべて・マチスの切り絵に迫る	燕市小中川児童館参加者・同館
20	11月30日 水	マチスの切り絵に迫る	附属長岡小学校3年2組児童、保護者・同校図工室

成果

鑑賞の講座ではその分野の専門の学芸員が、対象に応じて、映像などを交えながら、分かりやすく講義をした。ワークショップでは作家の技法や創造的な基本技能を体験していただいた。その結果は大変好評であり、美術館との距離が縮まったという感想をいただいたり、完成作品を学校の作品展等に発表したりなど、次の活動につがっていった。

課題

団体によって出前でなく近美での開催を希望する団体が複数あった。会場等を工夫し、出来る限り対応したい。

問合せ先

新潟県立近代美術館学芸課

電話：0258-28-4112

事業名

〔ワークショップ〕

目的

・美術についての新しい視野を開くように、ワークショップや鑑賞活動を進める。

実施主体

新潟県立近代美術館

参加対象

一般

参加者数

654名（第14回まで）

回数

16回

日数

のべ25日

時間

約90分

場所

新潟県立近代美術館講座室 企画展示室 常設展示室 他

内容

回	期日・時間	テーマ
1	4月29日(日)14時～ 7月23日(日)14時～	5月5日(日)14時～ 9月4日(日)14時～
	美術館の舞台裏探検	
内容	普段眼にすることないバックヤードや収蔵庫を見学し、美術館の業務について多角的に理解を深めた。	
2	4月24日(日)14時～ 5月8日(日)14時～ 5月22日(日)14時～	ギャラリートーク コレクターの眼差し
	企画展「秘蔵の日本画名品展」の所蔵家を講師として迎え、コレクションの収集にまつわる秘話などを交え、作品の解説を行った。	
3	期日・時間	テーマ
	5月7日(土)14時～	掛軸の扱い方講座
内容	日本画の形状で最も身近な「掛軸」。作品に優しい扱い方を専門の学芸員が分かりやすく解説し、実技指導を行った。	
4	期日・時間	テーマ
	7月28日(木)9時～12時 8月5日(金)13時～15時	子ども学芸員（関東甲信越静地区造形教育研究大会連携事業）
内容	上組小学校の児童が「いわさきちひろ展」を解説し、準備の活動を含めいわさきちひろの作品を深く味わった。	
5	期日・時間	テーマ
	7月10日(日)10時～12時 7月17日(日)10時～12日	近美で写写（長岡造形大学子どもものづくり大学連携事業）
内容	鑑賞・模写という活動を通して、作品の価値に気づき、制作のコツを会得した。	
6	期日・時間	テーマ
	7月31日(日)14時～	楽しく描こう石ころアート
内容	いろいろな形の石から発想を広げ、アクリル絵の具で色をつける。子どもから大人まで、誰でも楽しめ、実用的なオブジェを制作した。	
7	期日・時間	テーマ
	8月7日(日)14時～	まわれペットボトル風見鶏
内容	木材とペットボトルを組み合わせて、風を受けてくるくるまわる風見鶏を制作した。廃材利用と動くオブジェのおもしろさを体感できた。	
8	期日・時間	テーマ
	8月7日(日)14時～	朗読会「赤い蝋燭と人魚」
内容	いわさきちひろの挿絵を映像で流しながら、未明文学館の協力により、「赤い蝋燭と人魚」「おやゆびひめ」「月夜と眼鏡」の朗読を行った。	

9	期日・時間	テーマ
	8月14日(日)14時～	美術館の野外展示探検
	内容	美術館外のオブジェや彫刻について地図を見ながら楽しく探検するように野外彫刻の魅力を見たり触れたりしながら学芸員が解説した。
10	期日・時間	テーマ
	8月20日(土)10時30分～ 14時～	えほんのおはなし会
	内容	いわさきちひろゆかりの絵本や紙芝居を「金曜くるりんぱ」「のっぺ座」が上演した。
11	期日・時間	テーマ
	8月21日(日)14時～	にじみの美 ゆらり水彩の世界
	内容	水彩絵の具ににじみの技法を使って絵を描き、いわさきちひろの技法を体験した。
12	期日・時間	テーマ
	9月11日(日)14時～	美術館の名探偵
	内容	常設展示室の作品に隠されたなぞや秘密を探りながら、親子で作品の魅力を再確認した。
13	期日・時間	テーマ
	10月2日(日)14時～	落ち葉のブローチ
	内容	落ち葉に銀粘土を盛りつけ焼成し、その葉脈の美しさを生かしながら小さいアクセサリーを作成した。
14	期日・時間	テーマ
	11月6日(日)14時～	クイズで探検小人の世界
	内容	アリエッティの世界は人間界のどのようなものを借りて成り立っているのかを解説。また自分が小人になった感覚での美術館を映像で探検した。
15	期日・時間	テーマ
	1月22日(日)14時～	張り子でだるま①
	2月 5日(日)14時～	張り子でだるま②
	2月11日(土)14時～	張り子でだるま③
	内容	粘土に和紙を貼り付けて張り子を作成。粘土や和紙の乾燥に時間がかかるため、3回に分けて実施。
16	期日・時間	テーマ
	3月11日(日)14時～	きんぴのびじゅつであそぼう
	内容	企画展「びじゅつのおそびば」の展示物やしかけを使って、美術のおもしろさや不思議さを体験。

成果

- ・企画展にあわせて行ったワークショップは、参加者の感想などからも、より深く展覧会を味わうことに貢献できた。
- ・美術館単独で行うものだけでなく、他所属の専門家や造形大学などと連携した事業を行い、企画展をより楽しむだけでなくより広く深く美術に接する機会を提供できた。

課題

- ・参加希望の多いもので、回数を多くできるものについては、複数回実施を検討する。

問合せ先

新潟県立近代美術館学芸課

電話：0258-28-4112

事業名

〔美術鑑賞講座〕

目的

芸術鑑賞に関する基本的な理解、専門的な知識を身につける。

実施主体

新潟県立万代島美術館

参加対象

一般県民

参加者数

85名（1/21までの4回分）

回数

8回

日数

8日

時間

延べ12時間

場所

NICOプラザ会議室

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月4日(土) 14:00～15:30	美術家が描いた絵本	新潟県立万代島美術館 業務課長代理 宮下東子
	内容・方法	絵本作家ではなく美術家が作った絵本を、その作品とともに紹介し、絵本についての新たな概念を知ってもらう。 佐藤忠良、野見山暁治、元永定正の絵本を紹介。	
2	11月5日(土) 14:00～15:30	世紀末のウィーン、ミュンヘン、ベルリン	新潟県立万代島美術館 業務課長 桐原 浩
	内容・方法	開催中の展覧会と関連し、ウィーン分離派を中心に、分離派運動や美術雑誌などを紹介。	
3	11月19日(土) 14:00～15:30	バウハウス入門	新潟県立万代島美術館 主任学芸員 今井 有
	内容・方法	開催中の展覧会と関連。バウハウス入門編として、その理念と歴史を開催中の展覧会の出品作に触れながら紹介。	
4	1月21日(土) 14:00～15:30	所蔵品に親しむ① 亀倉雄策 1960年代の仕事	新潟県立万代島美術館 主任学芸員 今井 有
	内容・方法	吉田町(現・燕市)の出身で、日本のグラフィックデザイナーの草分けである亀倉雄策の1960年代の代表作を紹介しながらその活動を振り返る。	

5	期日・時間	テーマ	講師等
	2月4日(土) 14:00～15:30	所蔵品に親しむ② ギャラリートークの手法	新潟県立万代島美術館 業務課長代理 宮下 東子
内容・方法	所蔵品の画像を見ながら「対話式鑑賞」を実践。		
6	期日・時間	テーマ	講師等
	2月18日(土) 14:00～15:30	所蔵品に親しむ③ 描かれた風景	新潟県立万代島美術館 主任学芸員 今井 有
内容・方法	所蔵品展「異国憧憬—あこがれの風景—」の出品作品から、スライドを見ながらそのみどころや作者について紹介。		
7	期日・時間	テーマ	講師等
	3月3日(土) 14:00～15:30	来日した外国の美術家たち	新潟県立万代島美術館 業務課長 桐原 浩
内容・方法	ワーグマンやビゴー、オルリックなど、幕末以降日本にやってきて日本人と交流を深めた美術家達の生涯と作品について紹介。		
8	期日・時間	テーマ	講師等
	3月17日(土) 14:00～15:30	異国へ渡った日本人画家たち	新潟県立万代島美術館 業務課長代理 宮下 東子
内容・方法	所蔵品展「異国憧憬～あこがれの風景」の出品作品を鑑賞しながら、海外へ渡った画家たちを紹介。		

成 果

・多くの参加者があり、入館者数に貢献できた。

課 題

問合せ先

新潟県立万代島美術館（担当：宮下東子）TEL:025-290-6655

事業名

〔ワークショップ みんなで描こう 光にかがやく希いの水玉^{ねが}〕

目的

美術館の活動の幅を広げる。

実施主体

新潟県立万代島美術館

参加対象

一般県民

参加者数

総合計530名

回数

18回

日数

18日

時間

時間

場所

中央区及び東区ティールーム、美術館近隣ひまわりクラブ、朱鷺メッセエスプラナード

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7月7日(木)～ 26日(火)の内 9日 各1時間	水玉の中に影絵を描く	新潟県立万代島美術館 業務課長代理 宮下 東子
	内容・ 方法	老人及び小学生を対象に、丸い窓を開けた黒画用紙に透明板を貼り付け、ここに透明・油彩ペンでお絵描き。これを並べて朱鷺メッセで展示することを伝える。 ティールーム6箇所及びひまわりクラブ3箇所で、計174名に実施。	
2	期日・時間	テーマ	講師等
	内容・ 方法	水玉の中に影絵を描く 新潟日報販売店の協力を得て上記のお絵描きを実施。212名の協力を得る。	
3	期日・時間	テーマ	講師等
	内容・ 方法	8月6日(土)・ 7日(日) 11:00～15:00 集めて展示した風景を楽しみ、さらに制作を楽しむ 事前にワークショップした作品を展示し、訪れた人にも制作に参加してもらい、展示を増やす。 8/6(土)68名、8/7(日)76名 合計144名の参加。	

成果

- ・普段美術館に馴染みのない館外の人に美術館の展示会のアピールができた。
- ・ティールームやひまわりクラブでは普段の活動に変化があり、活性化につながった。

課題

- ・プロジェクトに造形作家に参加してもらい質の高い展示をするべきであった。

問合せ先

新潟県立万代島美術館 (担当：宮下東子) TEL:025-290-6655

事業名 【「クレーとカンディンスキーの時代」関連イベント 講演会】

目的 展覧会に対する理解と知識を深める。

実施主体 新潟県立万代島美術館

参加対象 一般県民

参加者数 22名

回数 1回 **日数** 1日

時間 1時間45分

場所 NICOプラザ会議室

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	10月23日(日) 14:00～15:45	クレーとカンディンスキーの時代	北九州市立美術館長、前 宮城県美術館副館長 西村 勇晴 様
	内容・ 方法	20世紀初頭のドイツ近代美術の画家たちのイメージの源泉を、特に日本美術がドイツに与えた影響を中心に捉え、たどる。	

成果 ・ドイツの近代美術や日本美術の世界への影響などに理解を深めることができた。

課題 ・広報の仕方に日時演題だけでなく内容を含める等の工夫が必要。

問合せ先 新潟県立万代島美術館（担当：宮下東子）TEL:025-290-6655

事業名 【「クレーとカンディンスキーの時代」関連イベント
コンサート&トーク】

目的 展覧会に対する理解と知識を深める。

実施主体 新潟県立万代島美術館

参加対象 一般県民 **参加者数** 125名

回数 1回 **日数** 1日 **時間** 45分

場所 新潟県立万代島美術館ロビー

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	11月23日(水) 14:00~14:45	クレーとカンディンスキーに因んで	新潟交響楽団メンバー によるストリングカルテット
1	内容・方法	展覧会に合わせて、クレーとカンディンスキー二人と様々な観点から関係する曲を選び、簡単な紹介・説明を交えながら演奏した。	

成果 ・多くの参加者があり、入館者数に貢献できた。

課題

問合せ先 新潟県立万代島美術館（担当：宮下東子）TEL:025-290-6655

事業名

〔企画展「新潟の画家たち」関連イベント アーティスト・トーク〕

目的

展覧会の出品作家、出品作品についての理解を深める。

実施主体

新潟県立万代島美術館

参加対象

一般県民

参加者数

109名(1/14までの3回分)

回数

6回

日数

6日

時間

—

場所

新潟県立万代島美術館展示室

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	1月7日(土) 14:00～	アーティスト・トーク	画家・東北芸術工科大学 準教授 番場 三雄 様
	内容・方法	展示室で自身の作品について語る。	
2	1月9日(月・祝) 14:00～	アーティスト・トーク	画家 早津 剛 様
	内容・方法	展示室で自身の作品について語る。	
3	1月14日(土) 14:00～	アーティスト・トーク	画家 鈴木 力 様
	内容・方法	展示室で自身の作品について語る。	
4	1月28日(土) 14:00～	アーティスト・トーク	画家 池山 阿有様
	内容・方法	展示室で自身の作品について語る。	

	期日・時間	テーマ	講師等
5	1月29日(日) 14:00～	アーティスト・トーク	画家 猪爪 彦一 様
	内容・方法	展示室で自身の作品について語る。	
	期日・時間	テーマ	講師等
6	2月12日(土) 14:00～	アーティスト・トーク	画家 坪谷 幸作 様
	内容・方法	展示室で自身の作品について語る。	

成 果

・多くの参加者があり、入館者数に貢献できた。

課 題

問合せ先

新潟県立万代島美術館（担当：宮下東子）TEL:025-290-6655

事業名	〔企画展「新潟の画家たち」関連イベント 講演会〕		
目的	展覧会の出品作家、出品作品についての理解を深める。		
実施主体	新潟県立万代島美術館		
参加対象	一般県民	参加者数	68名
回数	1回	日数	1日
場所	NICOプラザ会議室		
内容			

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	1月8日(日) 14:00～	色との対話	画家・東北芸術工科大学 教授 山田 修市 様
	内容・ 方法	スライドで自身の作品を紹介しながら解説する。	

成果 ・作家の作品の理解を深め、参加者自身の活動の参考になった。

課題

問合せ先 新潟県立万代島美術館（担当：宮下東子）TEL:025-290-6655

事業名

〔 企画展「新潟の画家たち」関連イベント
トーク&ワークショップ 〕

目的

展覧会の出品作家、出品作品についての理解を深める。

実施主体

新潟県立万代島美術館

参加対象

一般県民

参加者数

39名

回数

2回

日数

1日

時間

2時間

場所

新潟県立万代島美術館ロビー

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	1月15日(日) 13:00～	トーク「絵具考」	画家 柴田 長俊 様
	内容・方法	スタンドグラス作品や自身の作品に関連させながら、日本画の岩絵具や素材についての想いを語る。	
2	期日・時間 1月15日(日) 14:00～	ワークショップ「スタンドグラスのブローチを作ろう」	スタンドグラス工房加藤 代表 加藤 智之 様
	内容・方法	初心者用のキットを使用してスタンドグラスの手法によるブローチ作りを行う。	

成果

- ・作家の作品の理解を深めた。
- ・普段体験できない創作活動を楽しむことができた。

課題

- ・お仕着せのキットではなく、自由に創作できる要素があるとよい。

問合せ先

新潟県立万代島美術館（担当：宮下東子）TEL:025-290-6655

事業名	〔 企画展「新潟の画家たち」関連イベント ワークショップ 〕		
目的	実技を体験することにより、画家の制作への理解を深める。		
実施主体	新潟県立万代島美術館		
参加対象	一般県民	参加者数	20名
回数	1回	日数	1日
場所	新潟県立万代島美術館ロビー		
内容			

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	2月5日(日) 13:00～	色を織る。	画家 信田 俊郎 様
	内容・方法	オイルパステルを使って作品を作る。	

成果	・作家の実技を直接目にし、楽しむことができた。
課題	

問合せ先 新潟県立万代島美術館（担当：宮下東子）TEL:025-290-6655

事業名	〔 企画展「新潟の画家たち」関連イベント 日本画実演 〕		
目的	展覧会の出品作家の技術を直接目にする <u>ことで作家への理解を深める。</u>		
実施主体	新潟県立万代島美術館		
参加対象	一般県民	参加者数	およそ150名
回数	1回	日数	1日
場所	新潟県立万代島美術館ロビー		
内容			

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	1月22日(日) 14:00～	日本画実演	画家 齋藤 満栄 様
	内容・方法	参加者の要望に応じてその場で色紙に草花の絵を描く。	

成果	・作家の実技を直接目にし楽しむことができた。
課題	・事前の綿密な打合せが必要。

問合せ先

新潟県立万代島美術館（担当：宮下東子）TEL:025-290-6655

事業名

〔新潟県立歴史博物館 「出前講座」〕

目的

当館研究員の「調査・研究」活動の成果を広く県民に普及する場として、また、県民の多様なニーズに即した生涯学習の場として、県内各地で講座を開設する。

実施主体

新潟県立歴史博物館

参加対象

一般

参加者数

延べ 501名

回数

16回

日数

16日

時間

延べ25時間

場所

県内13会場（下記）

内容

各回とも配布資料・視聴覚機材を用い実施。講義後、質疑応答を行った。

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月10日（火） 10:00～11:30	新潟の妖怪 会場：小千谷市民会館	当館主任研究員 大楽 和正
	内容・方法	新潟県では酒吞童子や河童、人魚など数多くの妖怪にまつわる伝説、奇談が伝えられている。新潟県の人々と妖怪との関わりやそこから見える自然観などを紹介した。併せて、小千谷市に伝わる「真人貉（まっとむじな）」についても解説した。	
2	8月19日（金） 19:00～20:30	新潟の縄文文化 会場：長岡市みしま会館	当館専門研究員 西田 泰民
	内容・方法	火焰土器の発見の経緯、名称の由来、推定年代、作り方などを解説するとともに、縄文時代の暮らしぶりや時代背景について説明した。	
3	9月29日（木） 13:30～15:00	江戸時代の旅と越後の観光名所 会場：三条市大島公民館	当館主任研究員 渡部 浩二
	内容・方法	江戸時代は庶民の間にも旅が盛んとなり、越後にも多くの人びとが訪れた。当時の旅行案内書や道中記などから、そのような旅の実態と越後の観光名所について解説した。	
4	10月5日（水） 10月12日（水） 13:30～15:30	楽しい古文書講座（初級編）＜2回講座＞ 会場：出雲崎中央公民館	当館主任研究員 田邊 幹
	内容・方法	基本的な文字のくずしや言い回しなどについて学び、古文書に親しんだ。古文書初級者を対象者とし、丁寧にわかりやすく解説した。	
6	10月29日（土） 13:30～15:30	上杉景勝の佐渡渡海・朝鮮渡海 会場：佐渡市トキのむら元気館	当館主任研究員 前嶋 敏
	内容・方法	上杉景勝は自ら日本海を渡り、佐渡を支配下におさめて越後・佐渡を統一した。さらに豊臣秀吉の朝鮮出兵にも参加して日本海を渡った。景勝の渡海について、当時の歴史的な背景を含めて解説した。	

	期日・時間	テーマ	講師等
7	11月18日(金) 10:00~11:00	体験教室 まが玉作り 会場：関川村公民館	当館専門研究員 山本 哲也
	内容・方法	滑石(かっせき)という柔らかい石を削ってまが玉を作った。	
8	11月19日(土) 13:30~15:00	わら人形の神々 会場：阿賀町公民館	当館主任研究員 大楽 和正
	内容・方法	災いの侵入を防ぐことを目的として、村境などに大きなわら人形を立てる習俗は東日本に多く見られる。鍾馗様・鹿島様・仁王様などと呼ばれる、異形の神々について解説した。	
9	11月24日(木) 14:00~16:00	民俗学へのいざない 食文化 会場：田上町コミュニティセンター	当館参事 野堀 正雄
	内容・方法	「食い道楽」の大阪で鍛え上げた担当講師が、民俗学的見地から「本当の旨さとは何か」を問い掛けた。	
10	11月26日(土) 14:00~15:30	豆と日本人 会場：十日町情報館	当館主任研究員 大楽 和正
	内容・方法	12月25日を納豆ゴンチと呼び、年取りに納豆を作って食べる風習が県内に見られる。納豆を中心に、味噌・豆腐・ぼたもち・赤飯など、日本の豆文化について解説した。	
11	12月4日(日) 13:30~15:00	民具と世相 ―モノは世につれ世はモノにつれ― 会場：魚沼市堀之内公民館	当館参事 野堀 正雄
	内容・方法	昭和30年代後半からの高度経済成長は、私たちの生活を大きく変えた。身近な生活道具(民具)の移り変わりから、人々の暮らしや考え方の移り変わりを解き明かした。	
12	12月4日(日) 14:00~15:30	江戸時代の越後国絵図 会場：阿賀野市立吉田東伍記念博物館	当館主任研究員 渡部 浩二
	内容・方法	江戸時代に幕府の指示で描かれた越後国絵図(正保国絵図、元禄国絵図、天保国絵図)の概要を紹介し、そこからみえる江戸時代の越後国の様子を解説した。	
13	12月16日(金) 14:00~15:30	日本海海運と民俗文化 下越地方 会場：胎内市産業文化会館	当館参事 野堀 正雄
	内容・方法	様々な歴史資料の中から、多くの研究者によって日本海海運について論じられてきた。従来からの諸研究が見落としていた、あるいは気づかなかった点を明らかにするという視点に立って、日本海海運を再考した。また、「船絵馬」の見方についても分かりやすく解説した。	
14	1月22日(日) 14:00~15:30	古代の戦 会場：胎内市産業文化会館	当館専門研究員 浅井 勝利

14	内容・方法	奈良時代や平安時代における軍隊のあり方や戦の様子について解説した。		
15	期日・時間	テーマ		講師等
	2月23日（木） 14:30～15:30	楽しい古文書講座（初級編） 会場：胎内市産業文化会館		当館主任研究員 田邊 幹
	内容・方法	基本的な文字のくずしや言い回しなどについて学び、古文書に親しんだ。古文書初級者を対象者とし、丁寧にわかりやすく解説した。		
16	期日・時間	テーマ		講師等
	3月2日（金） 9:30～10:30	家の神さま仏さま 会場：新発田市紫雲寺地区公民館		当館主任研究員 大楽 和正
	内容・方法	家のなかには、神棚・仏壇・台所・便所など、さまざまな場所に神仏がまつられている。また、屋外に屋敷神をまつる家もある。家の年中行事や儀礼を通じて、家でまつる神仏について解説した。		

成 果

- ・今年度新たに佐渡市も含め、県内13市町村で、計16回の出前講座を実施し、500人を超える多くの方々から参加いただいた。また、これまでの受講者からの要望なども取り入れ、様々なテーマで講座を開設することができた。

課 題

- ・この5年間で、中越地区・下越地区・新潟地区においては、佐渡・粟島を含め、ほとんどの市町村で出前講座を実施してきた。反面、上越地区では一度も実施できていない。今後、上越地区の生涯学習担当者に働きかける等、様々な機会を通して出前講座をPRしていくとともに、これまでの各地区とのネットワークを大切に、出前講座のさらなる充実に努めていきたい。

問合せ先

新潟県立歴史博物館 経営企画課（担当 久保 英典、佐藤 正樹）
TEL：0258-47-6135

生涯学習相談・情報提供

生涯学習相談

生涯学習に関する相談にお答えします。

- ラ・ラ・ネットに掲載している指導者の連絡先を知りたい。
 - 講演会を計画しているが、条件に合った講師はいないか。
 - こんな事業の参考になる事例や資料はあるか。
- その他、さまざまな相談について、調べてお答えします。



相談時間は、

火曜日～金曜日 9：30～17：00

※国民の祝日及び年末年始は休みです。

TEL：025-284-6119 FAX：025-284-6019

E-MAIL：lalasoudan@mail.lalanet.gr.jp

お気軽にご相談ください。